



支え合う家族

新潟市西蒲区 土屋正直さん(63歳) フランシオサさん(54歳)

正月元旦、お寺への年始参りは家族連れが多い。土屋さん一家も、この年始参りを欠かしたことがない。今年も正直さん・フランシオサさん夫婦と中学3年の長女まり子さんが一緒だった。長男清春さんは高校生になった2年前から同行しなくなり、94歳の母フヂイさんも高齢で身体が不自由なため留守番だった。

正直さんは17年前に緑内障が原因で視力が落ち、幾度かの手術で回復したものの2年前からさらに悪化した。いま片方はほぼ見えず、もう一方も0・01の視力しかない。それまでは拡大鏡で見えた文字も読めなくなった。慣れた家の中は問題ないが、外出は家族の介助が必要だ。

恋愛結婚で結ばれたフィリピン出身のフランシオサさんがパートで働き、家族全員が支えあって暮らしている。

(院首記) (2ページに続く)

妙たえの光ひかり

復刊110号



行事案内

だいえ

ご妙判「お大会」

お稚児さん募集

4月29日(水・祝) 午前8時半受付開始

江戸時代から続く伝統行事です。お気軽にお参りください。
※別紙ご案内と檀徒用志納袋があります。
※お練りと法要に出仕していただくお稚児さんを募集中です。外孫等どなたでも。



春のお彼岸中日法要

3月20日(金・祝)

午前10時半 安穩廟法要
11時 春季彼岸法要…本堂
12時 おとき(どなたでも当日受付)
午後1時 住職法話…大広間

お彼岸は春秋2回、陽気も良くなり昼夜の時間が同じになるこの日、心の偏りをなくして仏様の教えを修行しましょうという古くからの行事です。どうぞ皆様でお出かけください。



寺院参拝の旅

春の越後路
～日蓮聖人ゆかりの寺院参拝の旅～

4月12日(日)

●参加費(昼夕食付)
大人 10,000円 小学生 3,000円
●申込〆切 3月末日
日帰りのバス旅です。妙光寺檀信徒及びその友人等、どなたでもご参加いただけます。
※詳細は別紙ご案内をご覧ください。



あ と が き

妙光寺も、例年になく雪のない暖かな冬を過ごしました。「コートを忘れることもあるほどですね」と話していたら、2月に入って寒い日が続きました。それでも自然の営みはありがたいもので、確実に春は近づいています。今号の『妙光寺質問箱』は「妙光寺のおとき」を載せました。すべて手作りのおとき料理を用意しているお寺は、珍しいそうです。今年も、どうぞお出かけください。(新倉理恵子)

月例信行会

毎月第一日曜日
3月1日・4月5日・5月3日・6月7日

●午前7時～9時
●会費 千円(各自賽銭箱にお願いします)
●予約申込み不用。当日直接お寺へお越し下さい。

月例ボランティア

毎月15日 午前9時～11時半/午後1時～3時

堂内や境内の清掃等をお願いしています。都合の良い時間にお越し下さい。昼食はご持参願います。

お寺でヨガ

毎月第3木曜日
4月16日・5月14日・6月18日

●時 間 午後2時～3時15分
●参加費 一回700円
●持ち物 ヨガマット、もしくはバスタオル
●講 師 ノリコさん

※初めての方、どなたでも参加できますが予約制です。
その都度電話でのご連絡をお願いします。



新潟市西蒲区 土屋正直さん(63歳) フランシオサさん(54歳)

代々の信心深い家族

土屋家は300年以上続く農家で、6年前に亡くなった父親の清一さんが2町5反の田んぼを耕作してきた。母親のフヂイさんは、毎日自ら作った野菜を自転車の荷台に乗せて近くの町で売り歩いた。清一さんは誠実な人柄で、毎年お盆にお寺の本堂の精霊棚に敷く「荒こも」を材料の刈り取りから手作りして奉納した。奉納は、亡くなる直前まで50年間続いた。生前に受けた戒名を刺繍した略式袈裟を掛けて穏やかな表情をした姿が、今遺影になっている。その清一さんの母親も信仰熱心で、近所にある観音様の小さな祠に毎日お参りを生涯欠かさない人だった。

仕事が続けられなくなった

そんな家庭で姉2人の末っ子に生まれた正直さんだが、10代の反抗期には荒れた生活が続いたこともある。だが学業を終えると表具屋に弟子入りし、5年かけて表具や内装仕事を身につけた。その後母方の叔父の元で内装工事に携わ

り、バブル期の建設ラッシュの中、県内だけでなく県外の現場まで出かけた。

やがて父親が高齢で農作業ができなくなったのを機に独立し、農業にも力を入れるようになった。何事にも打ち込む性格で、米作りは肥料を工夫し農協の食味検査で5つ星ランクを取れるようになった。内装工事でも仕事が丁寧と評判を呼び、さらに忙しくなり面白かったという。しかし緑内障の進行で視力が急激に落ち、車の運転も難しくなつて結局仕事はやめざるを得なかった。

支え合い今を生きる

このとき正直さんを支えたのが妻のフランシオサさんだ。近くの飲食店で働いていたときに出会い、1年余り交際を続けて2000年に結婚した。フランシオサさんは母国語のタガログ語と英語が堪能だが、日本語の読み書きが十分でない。それでも勉強して日本の運転免許を取得し、正直さんに代わって軽トラやコンバインを運転して農作業を助けた。畑では自家用なが

らイチゴや野菜も上手く作れるようになった。

しかし農業は重労働である。今は田んぼをすべて委託耕作に出した。身体が不自由な母は、介護サービスタと近所に住む姉の応援も受けて家族で介護している。フランシオサさんは仕事と子育てに忙しい毎日を送っている。「結婚して20年の間に、フイリピンに帰国したのは3回。できれば今年帰りたいと楽しみにしている」と語る。

温かい家族が未来を紡ぐ

正直さんは今、医者から手術の方法もあるが失敗すると完全失明すると言われ悩んでいる。「一生懸命頑張る妻には、本当に感謝している。家族みんなでお盆の墓参りと、正月の年始参りを欠かさず続けてきた。倅も2年前までは一緒ににお寺に行った。今は反抗期なのか。農業を継げとは言わないけれど、300年続いたこの家は守つてほしい。自分も若い頃は同じだったから、強くは言えないけど」と笑顔で語る。目が見えない正直さんと身体が不自由な母が、二人がか



りでお茶を入れてくれる姿に、心が和んだ。
かつて亡き父・清一さんは「俺たちを大事にしてくれるとても優しいお嫁さんで喜んでいて。ただフイリピンはキリスト教が盛んな国だと聞いた。お寺との関係が切れてしまうのかと心配だ」と言っていた。思いやりのある温かい家族のなかでそれは杞憂だったようだ。

(院首記)

安 穏

美人になる方法 小川良恵

日蓮聖人の御文書では

「心や人柄が顔に出る」という言葉を皆さん聞いたことがあると思います。

日蓮聖人は『如来滅後五百歳始観心本尊抄』という残された御文書の中で次のように説かれています。

「しばしば他面を見るに、ある時は喜び、ある時は瞋り、ある時は平に、ある時は貪現じ、ある時は痴現じ、ある時は諂曲なり。瞋は地獄、貪は餓鬼、痴は畜生、諂曲は修羅、喜は天、平なるは人なり。他面の色法において、六道共にこれあり。」

他人の顔を見ていると、怒っている時には地獄の鬼のような形相、喜んでいる時には天女のような表情など様々な表情が現れます。人は心のなかに地獄や動物たちの世界、人間の世界、天界など十の世界を持っています。表情に現れるという意味です。人は心掛け次第で、心が鬼にも人間にも天女にもなれ、それが顔形にも現れるということです。

絵本『泥かぶら』

『泥かぶら』という絵本があります。

ある村にいた髪はボサボサ、肌は真っ黒、服はボロボロ、身体は泥だらけの醜い女の子の物語です。女の子はいつもひとりぼっちで、村人からは「泥かぶら」と呼ばれ、意地悪ばかりをされていたそうです。悲しみと憎しみに囚われた泥かぶらの顔は、ますます醜くなっていきました。

美しくなる3つの方法

ある日のこと村はずれで、「美しくなりたい」と叫んでいた泥かぶらは、通りがかりの旅のお坊さんから、美しくなる3つの方法を教わります。それは「自分の醜さを恥じないこと」「いつも笑顔でいること」「人の身になつて思つこと」の3つでした。

お坊さんの言葉通りの生き方をはじめた泥かぶらは、やがて次第に村人にとつてかけがえの無い存在になっていきました。

心も穏やかになり、ついには村を訪れた人買いの心さえ改心させました。
「私はなんてひどい仕事をしていたのだろう。お前のおかげで、私の身体の中にあつた佛の心が目覚めた。ありがとう。仏のように美しい子よ。人買いはそう言つて、自分の生き方を改めたのです。」

仏様の心で生きる

他人の中の「仏の心」を呼び覚ますことを、「菩薩の行い」といいます。悪い感情を向けられたからと言って、愚痴ったり、罵つたりすれば、口にした本人の心を鬼のようにしてしまふばかりではなく、周りの人をも鬼にしていまいます。泥かぶらは、人買いの心まで変えることが出来ました。自分がどんなに酷い仕打ちを受けても、美しくなる3つの方法を信じ続けた泥かぶらのように生きること。「美人になる方法」とは、「仏様の心で生きること」なのです。

◆新年お経会 1月26日㊤



地元角田地区の皆さんが本堂でお参り。太鼓の音もびったり合います。今年も一年良い年でありますように…。その後は新年会で今年もよろしく！と親睦を深めます

◆厄除祈願祭 2月2日㊤、3日㊤



2日間で57人のご祈祷を行いました。厄年にあたっている方だけではなく、家内安全や身体健全なども祈ります。



お加持で一人ひとりの厄を祓い、お札とお守りを差し上げます。



ご祈祷の後は特製のお汁粉で和気あいあいと…。

◆雪のない冬です



境内ではひと月も早く早咲きの桜が開花、福寿草が満開です。



寺のうごき 冬



◆大晦日除夜の鐘

寒い中、今年も家族連れを中心に200人余りで賑わいました。甘酒とこんにゃくの振舞いに身体も暖まり、縁起物の当たる福引で盛り上がりました。



除夜の鐘、最初に住職がお経を上げてから、一つ目を撞きます。



古いお札などを浄火する「お焚き上げ」。



海外からの留学生3人もホームステイ先の家族と一緒に本堂でお参り、それぞれ鐘を撞きました

◆令和2年元旦



今年は暖冬で穏やかな正月でした。3世代そろって新年のご挨拶に来られる方も多く賑やかな大広間です。



住職が法事の日程等ご相談に対応します。



お時間のある方には、役員さん持ち寄りのお節料理で院首がおもてなし。



恒例となったお茶席も人気です。お茶席のお菓子は、檀徒Mさん手作りの『妙光寺チョコレート』が好評でした。

―菊池泰全上人に聞く―

日蓮宗学寮から 4月1日付で妙光寺へ



菊池泰全上人（22歳）
大分妙瑞寺住職菊池泰啓上人の長男。今春、立正大学仏教学部宗学科を卒業する。大学時代は、日蓮宗立学寮で4年間を過ごし、学寮長も務めた。家族は両親と中3の妹。

春から妙光寺に役僧として勤務する菊池上人は、
今春、大学を卒業するピカピカの社会人一年生です。
昨夏、戸籍名も今までの「のぶはる宣全」から「泰全」に改めました。
菊池上人の生家は、「大分安穩廟」のある大分市みょうずいじ妙瑞寺。
やや緊張気味の菊池上人にお話をうかがいました。

Q 初めて妙光寺に来たのは、中学生の時でしたね。その頃からお坊さんになろうと思っていたのですか？

菊池 中学3年でバスケットボール部を引退したので、夏の「送り盆」のお手伝いに来ました。でも、その時はわけもわからずただ父に「来るか？」と言われて来ただけで、将来のことは何も考えていませんでした。

Q お父さんからは、後を継いでほしいとは言われませんでしたか？

菊池 父からは一度も言われたことはありません。中1から高3の6年間は、バスケットボールに打ち込んで過ごしました。

Q お坊さんになろうと思ったのは、いつですか？

菊池 高校2年生で「進路をどうする？」という話になったときです。小さい時から法要の手伝いはしていたし、父がNPO法人「これからの葬送を考える会九州」の活動をしているのを見ていました。普通のお寺よりも人が集まってくるお寺だということ

がわかり始めたころです。集まる人たちが皆笑顔で帰っていく。ただ法を説く僧侶ではなく、こういう風に人に寄り添う姿はいいなあ。これを仕事にしたいと思いました。

Q そこで日蓮宗立学寮に入寮して、いかがでしたか？

菊池 僕はほとんど予備知識なしで入寮しました。父をはじめとして学寮出身の方が周りにたくさんいたので、そういうものだと思っていたんです。部活の合宿に行くイメージでした。

Q でも学寮は規則も厳しいわけじゃないですか？

菊池 初日に、寮の玄関で受験の時に知り合った仲間に出会ったので、「よー」とハイタッチしたんです。あり得ない行動だったらしくて、驚かれました。その後、着物の着付けを教えてくれた先輩に、愛想よくしようと思って、にこにこ話しかけたんです。そうしたら「生意気だ」ということになって、先輩の説教がありました。とにかく初めは「なんで?！」と思うことの連続でした。

Q 学寮生活は修行生活だということですか？

菊池 「僧道生活」というのですが、僧侶になるための基礎を築く団体生活なんです。つまり、一つの修行です。そこが初めはよくわかっていなかったのですが、びつくりしました。

Q 一日の日課は、どうなっていますか？

菊池 毎朝5時半に起床して、まず掃除

をします。6時10分から朝勤でお経を読み、6時45分くらいから朝食です。季節によつて7時20分から水行をします。水行は希望者だけで、寮生の半数くらいが行います。それから大学に行つて授業を受けて、帰つてくると夕勤は5時半から。6時15分の夕食後は、研修などがなければ自由なので外出もできます。消灯は10時で、門限は11時です。

Q 土日も関係なく、毎朝5時半起床ですか？

菊池 土日も休みなく、毎日です。それに法要などの行事もあるし、そのための打ち合わせも必要です。土日の夜は、研修もあります。読経の練習もしなくてはなりません。僕は、基本的なお経しか読めない状態で入寮しましたが、同期の中には全部読める人もいました。毎日のお勤めがあるので、1年生のうちに全員が読めるようにならなくてはいいけない。結局、夜外出することはあまりありませんね。

Q 普通の学生生活とは違いますね。では楽しみは？

菊池 3年生以上になれば寮でお酒もOKになります。毎晩のように、先輩後輩いっしょに話し込んだり、時には飲んだりすることが楽しみです。

Q 入寮当初はびつくりの連続だった生活に慣れたのはいつごろですか？

5月半ばごろ、先輩から「お経というのは物語になっているんだよ」と教えられたんです。さっそく大学の図書館から、法



華経の現代語訳を借りてきて読んでみしました。その時「どうしてお釈迦様には僕の気持ちができるんだろう」と感動したのが、僕の信心のきっかけです。それから、学寮生活にも前向きに取り組むようになったと思います。

Q 4年間で一番辛かったことは何ですか？

菊池 2年生の時です。自分の中にぶれないものを持ちたいと思って、今思えばとても焦っていました。後輩も入学してきたし、学寮の中で自分が頑張らなくてはダメだという気持ちでいっぱいになってしまつてゐ。でも同期は自分以外に1人いて、全員が同じ気持ちになれるはずはありません。「理想の学寮生活」のイメージはあったけれど、それを人に伝える方法がわからなかったんです。次第に全部ひとりで行っている感じがして、みんながわかってくれないと思えて、辛くて仕方がありませんでした。夏の「送り盆」のお手伝いに来た時には、院首さまに相談して泣いてし



まったこともあります。いろいろな方たちに相談する中で、少しずつ冷静になって、どうしたらいいか考えられるようになりました。

Q 学寮長を務めたのは、3年生の時ですね。

菊池 学寮長は互選で決まりますが、僕は寮生の総意でやらせていただきました。その時、寮監先生から「寮長は前に立つのではない。みんなの真ん中にいて、時には後ろから押し、時には前から引つ張らなくてはいいけない」と言われました。それで仲間への言葉のかけ方や、日常の行動の仕方を、よく考えるようになりました。突き詰めれば、相手を思いやる気持ちがないと何も伝わらないのだと痛感しました。

Q 寮長として一番大変だったことは？

菊池 学寮最大の行事である「行脚」ルビあんぎやです。日蓮聖人のご霊跡を、団扇太鼓を叩きながら徒歩でまわります。千葉・身延・伊豆・佐渡の4か所を、

Q さて、いよいよ春から妙光寺です。抱負を聞かせてください。

菊池 「送り盆」のお手伝いには、信行道場に行つた3年生の夏以外は、毎年うかがっています。妙光寺はいろいろな人たちが集まっている、時代の先頭を走る寺だと思っています。だから妙光寺で働かせていただけるのは、本当にうれしいです。僕は大学と学寮で基礎を学んだだけなので、それをどこまで生かせるか、不安と期待でいっぱいです。まだ世間知らずですが、やる気だけは十分にあるのでよろしくお願いします。

（聴いた人 編集部・新倉理恵子）

大分市妙瑞寺住職である菊池泰啓上人は、院首小川英爾の10歳年下で、夏のフェスティバルには第4回（一九九三年）から毎年お手伝いに来てくださっている。時代の中での寺院のあり方に悩んでいた若き菊池住職は、妙光寺に指針を見出し、一九九八年「大分安穩廟」を開設。文字通り志を同じくする寺として活動している。



一千二百一人の弟子たちの受記

「受記」とは、お釈迦様が弟子に対し「あなたは将来必ず仏に成る」と予言し保証されることです。この章では、富楼那という弟子をはじめとした一千二百一人の弟子たちの成仏が予言されます。

五百人の修行者たち

章題の五百とはこの一千二百一人のうち、「普明」という名前の仏（普明如来）になると記された修行者たちの人数です。彼らは大いに喜び、「衣裏繫珠の喩」をもって自分たちが仏の教えを理解したことを表明します。

「衣裏繫珠の喩」

「衣裏繫珠の喩」とはこれまでも登場した法華七喩（法華経中の7つの喩え話）の1つです。それは、このような話です。

ある貧しい男が、裕福な友人の家に遊びに行き、沢山のご馳走を振る舞ってもらいました。男は酔いつぶれましたが、友人は眠る男

の衿に高価な宝石まで縫い付けて、そのまま出かけてしまいます。その後で目覚めた男は、宝石のことなど全く気づきません。気づかぬまま外国へと旅立ちました。生来怠け者だった男は、一日一日をどうにか食いつなぐという流浪の生活でも満足していました。ある時、街をさまよっているところ、友人と再会します。友人は貧しいままの姿をした男に驚いて、衿に縫い付けた宝石のことを教えました。男はそこでようやく、自分が最も価値のあるものをすでに得ていたことに気づくのです。

宝石は最高の悟り

この話の中の友人はお釈迦様のことであり、宝石は真実の教え——最高の悟りのことです。

五百人の修行者は、それまで自分たちが得たと思っていた悟りは、貧しい男のその日一日の満足のようずっと小さなものであったことに気づきます。そして「受記」を得て、本当はすでに最高の悟りを手にしていたことを知り、反省と喜びを表すのです。

角田山妙光寺インフォメーション

新人事

6ページのインタビューでお知らせの通り、4月1日から新たに菊池泰全上人が山務員に加わります。お父さんが院首の後輩に当たる大分市妙瑞寺のご住職で、泰全上人は中学生の頃から夏の妙光寺に来てお手伝いしてくれました。妙光寺をよく理解している爽やかな好青年です。宜しくお願いします。

住宅、自動車等提供へのお礼と報告

妙光寺は寺から車で15分の市内西区五十嵐に、社宅として中古住宅を所有しています。これまでに大分の永石上人夫妻、千葉の戸田上人、そして前任で県内村上市の佐藤上人が居住してきました。この住宅が築35年で老朽化著しく、昨今の地価下落で今後の所有を検討しなければならぬ時期にきていました。これが幸い現状のままで売却できました。



2棟のうち左側の1棟を使います。

そこで新たに新任の菊池上人の住居として貸家か貸室と、不要自家用車の情報提供を皆様にお願したところ、3件の住居と1件の車のお話を頂きました。お陰様で車はまとまりました。住居は備品等の問題もあり役員の協議で、1年前に購入した境内隣接土地に建つ中古住宅を改修して使用することにしました。通勤時間にもかかわらず改修費用が将来無駄にならないとの判断からです。ありがたいことに冷蔵庫、洗濯機、ベッド他家具の提

『安穩廟』増設工事

30年を経た安穩廟ですが新規の希望者が絶えません。敷地はありますが拡大すると将来の管理が問題になるため、同じ敷地内での増設で対応してきました。しかしすぐ満杯になり現在も空きがありません。最近では従来の檀徒さんからの申込みが増える傾向で、何とかお応えしたいと検討してきました。

このたび『池の上』に9基72区画の増設を計画、行政の許可を得て2月に着工しました。お彼岸中は工事を中断するなど、安全には万全を期します。お参りの際には足下のご注意等ご協力をお願いします。

浄土講座

昨年は日程の都合が付かず開催できませんでした。今年も日程が確定せず、

別紙のご案内

同封別紙で『春の日帰り参拝旅行』『ご判様』『お稚児さん募集』をご案内いたしました。いずれもどなたでもご参加いただけます。ご不明の点は気兼ねなくお問い合わせください。

『送り盆』の日程と内容の確定

今年の送り盆は8月29日①です。『人とながり、人と生き、みんな喜びあう』を全体テーマに、トークのゲストに絵本作家の川端誠さん、音楽にはおなじみの『鼓童』名誉団員で篠笛奏者・山口幹文さんをお願いしました。ご予約ください。



妙光寺質問箱



仏事の後で戴く食事を

Q “おとき”と呼びますが、
どんな意味があるのですか？

“おとき”は、漢字で“お斎”と書きます。お寺が法要後に参詣者に供養したり、法事や葬儀の後で施主が提供する食事のことをいいます。

古くからの仏教では修行僧の食事は正午前に済ませ、午後は非^ひ時^じと言って食べてはいけな^い戒^{かい}律^{りつ}（規則）があります。また「精進^{しやうじん}潔^{けつ}斎^{さい}」という言葉があるように、昔は親族に死者が出るとその穢^{けがれ}れを払う為に一定期間仏道に励み、酒や肉類を避けた食事をしました。この時と斎^{さい}が混^まじったのが“お斎^{さい}”の言葉の由来です。本来のお斎は、もちろん精進料理でした。

いまお斎は、時代の流れで内容も形もすっかり様変わりしました。元来その精神は仏様、故人、修行者のためにお供えた食事を皆さんが共に分け合^あって頂き、体と心を養^{やしな}うことにあります。供養の文字を分解すると「人が共に養^{やしな}う」となり、お斎も供養のひとつであるというわけです。



若い人も多い最近の韓国のお寺のお斎。韓国式精進料理で、緑の服のボランティア信者たちによる手作りです。（撮影・院首）

*現在でも南方の修行僧は、午後の食事をしません。午後の食事は修行の妨げになるという説。修行僧は早朝に街中を托鉢し、信者から供養された調理済みの食事を寺で頂きます。暑いので午後にはそれが腐るからという説もあります。

妙光寺の
お宝紹介
vol.6

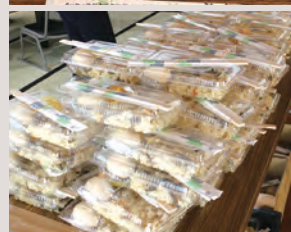
妙光寺のお斎^{とき}

妙光寺では行事のたびに、当番の方達が手作りしたお斎が振る舞われます。檀信徒の皆さんからお供え頂いた米と新鮮な野菜を素材にした、季節毎の献立です。どなたでも召し上がっていただけるもので、その一部をご紹介します！

3月お彼岸



4月ご判様



8月お盆



9月お彼岸



えしき
お会式



お正月



その他の行事

